循環器内科

（スタッフ）

部長　　：村松　浩平
副部長　：古閑　靖章
　　：中野　正紹（2021. 3月まで）
　　：上運天　均（2021. 3月まで）
主任医師　：新富　將央
　　：秋山　雄介（2021. 4月から）
嘱託医　：倉岡　沙耶菜（2021. 4月から）
専攻医　：藤田　理志（2021. 4月から）
　　：加藤　あさひ（2021. 4月から）
　　：岸田　峻（2021. 4月から）
　　：若槻　卓成（2021. 3月まで）
　　：木村　光邦（2021. 3月まで）

当初より、長年、中心となって当科を支え続けた上運天均医師が退職しました。前年度からの村松浩平・古閑靖章・新富將央医師に加え、秋山雄介・倉岡沙耶菜・藤田理志・加藤あさひ・岸田峻医師が赴任しました。研修医は、甲斐大喜・川口博行・丸山莉果・鬼塚かやの・安東和真・矢野文子・郡奈央・木下絵里子・安部さやか・黒瀬友哉・調広二郎・馬場晶子が研修しました。

外来業務は、首藤久恵・筒井久恵の２名の看護師とともに診療にあたりました。病棟業務は瑞木恵美看護師長と安藤勝美・熊田東子の両副看護師長をはじめとする看護師とともに診療にあたりました。心臓カテーテル検査（緊急カテも含め）では、放射線技師・看護師・生理検査技師・臨床工学技士が常に参加しています。

毎週の循内合同カンファレンスには、循環器内科医師全員と循環器内科に関係する全てのコメディカル（病棟看護師・外来看護師・放射線科看護師・放射線技師・生理検査技師・薬剤師・医事課職員・ドクタークラーク・臨床工学技士）が参加しています。また、毎週、心臓血管外科ともハートチームカンファレンスを行い、毎朝の救命救急センターのカンファレンスには、循環器内科医師も参加しています。

「心不全パンデミック」と言われ、特に高齢者の心不全患者の爆発的な増加が重大な問題となっています。慢性心不全看護認定看護師（県内２人）の佐藤寛子看護師が週２回、心不全看護外来を行い、毎週、多職種心不全カンファレンス（医師、病棟・外来看護師、緩和ケア看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、必要に応じて心理療法士）を行っています。

（診療実績）

昨年同様に、新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりますが、心カテ件数（927件）・PCI件数（399件）は、共に昨年より増加しました（図１）。PCIの中で、ELCAは37件、ROTA は31件、DCAは12件、Diamond Backは11件でした。EVT（末梢血管カテーテル治療）は38件でした。ペースメーカーは、新規30件、電池交換３件、リードレスペースメーカーは３件、CRT-P（両室ペースメーカ）は２件、CRT-D（植え込み型除細動器付き両室ペースメーカ）は１件でした。IABPは、22件、PCPSは13件でした。

ABL（カテーテルアブレーション）は、大分大学循環器内科のバックアップのもとに21件行っています。

紹介率は108％、逆紹介率は年々増加して476％でした。地域医療・病診連携に、微力ではありますが、貢献できるようになって来ました（図２）。

（今後の方向性）

従来、重症急患の初期治療と蘇生患者の脳低体温療法も含めた入院加療を担当してくれる救命救急センターのスタッフと、困難な手術を断ることなく引き受けてくれる心臓血管外科のスタッフのバックアップ、そして、総合力のある循環器センターこそが、循環器内科の最大の強みとなっています。

循環器センター日当直とホットラインで、24 時間365日体制で、各医療機関・救急隊からの循環器救急依頼に対応しています。

心筋梗塞・心不全の急性治療のみならず、古閑医師が中心となって、冠疾患のハイリスクの患者に対して積極的なスクリーニングを行い、急性冠症候群の発症前に治療介入出来るように、院内・病診連携のシステム構築に努めています。

大分県心不全ケアカンファレンスの取り組みにも積極的に参加し、これからも心不全パンデミックに対して、多職種で対応していきたいと思います。

今後、病診連携をよりスムーズに行い、外来通院を開業医の先生方にお願いするとともに、急変・緊急患者の対応、そして、冠動脈イベント発症前に治療介入できるよう、当科でも併診の体制を続けていきます。

（文責：村松浩平）

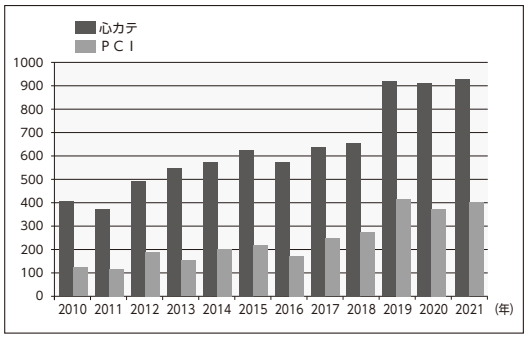

図１　心カテ・PCI件数の推移

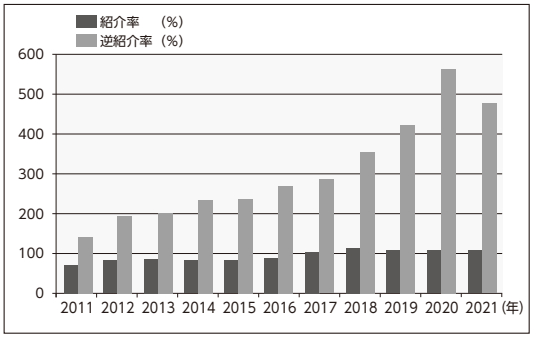

図２　紹介率・逆紹介率の推移